

早期にターミナル訪問

海コン協会 部会と共同歩調

阪神港海上コンテナ協会(山口与嗣雄会長)は9月19日、神戸市東灘区の神戸ファッションマート会議室で理事会を開き、渋滞解消に向けて大阪、神戸両港のターミナル各社を訪問する方針を決めた。訪問日程は今後詰めるが、年末繁忙期を控えて「早いほうがいい」との意見もあり、ターミナル側との調整を急ぐ。

協会も「常に(大ト協、兵ト協の)海コン部会とともに前進していくべきだ」として、ターミナル訪問を決めた。「海コン協会の渋滞対策委員会として活動ルールを作るべきだ」という意見もあったが、「中小運送会社にとって渋滞問題は死活問題。海コン部会とともにぜひ現場担当者にあいさつに行きたい」と(小西保美氏)キヤリ(サービス)との強い要望があり、ターミナル訪問を決めた。

大ト協、兵ト協、海コン部会との協調を重視する海コン協会では「渋滞対策は兵ト協の部会で問題になっているのだから、それをきっちり処理せずに、協会だけで動くことには問題があるのではないか」との懸念もあり、各部会の承認を得たうえで共同歩調をとることとした。兵ト協の佐賀里隆之部会長(協栄運輸)は「協会が動く」と決めたうえで、兵ト協部会は海コン協会とともにターミナルを訪



阪神港海コン協会の理事会

問することに異論はないとの考えを示した。役員の中には「名義貸しや不法駐車など事業者自らが襟を正したうえで、渋滞の影響がどうなっているのかなどのデータを示さなければ、訪問しても無駄

だ」(鳥居豊太郎氏)野田屋運送)との意見もあったが、「協会は(渋滞対策を)何もしていないという声に答えるためには、今回は渋滞しているターミナルに行くという目的でいいのではないか。デ

ータは今後集めよう」との声が多く、ターミナル訪問を優先することにした。

一方、同協会では定期的にターミナル待機時間の調査を実施しているが、次回は12月1

日から31日までの1カ月間、実施する。全会員に協力を呼びかけ、調査データを1月に回

収する予定だ。同調査はこれまで4月と12月の年2回行っているが、会員から「調査回

数が少ないのではないか」との声も聞かれるとして、今後は年4回に増やす。